

平成29年12月遠野市議会定例会会議録（第3号）

平成29年12月5日（火曜日）

議事日程 第3号

平成29年12月5日（火曜日）午前10時開議

第1 一般質問

本日の会議に付した事件

- 1 日程第1 一般質問（菊池巳喜男、瀧本孝一議員）
- 2 散 会

出席議員（18名）

- | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 番 | 宮 | 田 | 勝 | 美 | 君 | | |
| 2 | 番 | 小 | 林 | 立 | 栄 | 君 | | |
| 3 | 番 | 菊 | 池 | 美 | 也 | 君 | | |
| 4 | 番 | 萩 | 野 | 幸 | 弘 | 君 | | |
| 5 | 番 | 瀧 | 本 | 孝 | 一 | 君 | | |
| 6 | 番 | 多 | 田 | | 勉 | 君 | | |
| 7 | 番 | 菊 | 池 | 由 | 紀 | 夫 | 君 | |
| 8 | 番 | 佐 | 々 | 木 | 大 | 三 | 郎 | 君 |
| 9 | 番 | 菊 | 池 | 巳 | 喜 | 男 | 君 | |
| 10 | 番 | 照 | 井 | 文 | 雄 | 君 | | |
| 11 | 番 | 荒 | 川 | 栄 | 悦 | 君 | | |
| 12 | 番 | 菊 | 池 | | 充 | 君 | | |
| 13 | 番 | 瀧 | 澤 | 征 | 幸 | 君 | | |
| 14 | 番 | 細 | 川 | 幸 | 男 | 君 | | |
| 15 | 番 | 浅 | 沼 | 幸 | 雄 | 君 | | |
| 16 | 番 | 多 | 田 | 誠 | 一 | 君 | | |
| 17 | 番 | 安 | 部 | 重 | 幸 | 君 | | |
| 18 | 番 | 新 | 田 | 勝 | 見 | 君 | | |

欠席議員

なし

事務局職員出席者

- | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事 | 務 | 局 | 長 | 村 | 上 | 猛 | 君 |
| 主 | | 査 | 及 | 川 | 憲 | 司 | 君 |

説明のため出席した者

- | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 市 | 長 | 本 | 田 | 敏 | 秋 | 君 | | | | | | | | |
| 副 | 市 | 飛 | 内 | 雅 | 之 | 君 | | | | | | | | |
| 経 | 営 | 企 | 画 | 部 | 長 | 兼 | 鈴 | 木 | 英 | 呂 | 君 | | | |
| 政 | 策 | 推 | 進 | 担 | 当 | 課 | 長 | | | | | | | |
| 経 | 営 | 企 | 画 | 部 | | | 竹 | 内 | 正 | 己 | 君 | | | |
| 地 | 域 | 経 | 営 | 改 | 革 | 担 | 当 | 部 | 長 | | | | | |
| 総 | 務 | 部 | 長 | 兼 | | | 鈴 | 木 | 惣 | 喜 | 君 | | | |
| 防 | 災 | 危 | 機 | 管 | 理 | 課 | 長 | | | | | | | |
| 健 | 康 | 福 | 祉 | 部 | 長 | 兼 | 健 | 康 | 福 | 祉 | の | 里 | 所 | 長 |
| 兼 | 地 | 域 | 包 | 括 | 支 | 援 | セ | ン | タ | ー | 所 | 長 | | |
| 産 | 業 | 振 | 興 | 部 | 長 | 兼 | | | | | | | | |
| 連 | 携 | 交 | 流 | 課 | 長 | | 大 | 里 | 政 | 純 | 君 | | | |
| 農 | 林 | 畜 | 産 | 部 | 長 | 兼 | | | | | | | | |
| 六 | 次 | 産 | 業 | 推 | 進 | 担 | 当 | 部 | 長 | | | | | |
| 環 | 境 | 整 | 備 | 部 | 長 | | 佐 | 藤 | 浩 | 一 | 君 | | | |
| 環 | 境 | 整 | 備 | 部 | | | 千 | 田 | 孝 | 喜 | 君 | | | |
| ま | ち | づ | く | り | 再 | 生 | 担 | 当 | 部 | 長 | | | | |
| 市 | 民 | セ | ン | タ | ー | 所 | 長 | | | | | | | |
| 石 | 田 | 久 | 男 | 君 | | | | | | | | | | |
| 遠 | 野 | 文 | 化 | 研 | 究 | セ | ン | タ | ー | 部 | 長 | | | |
| 兼 | 調 | 査 | 研 | 究 | 課 | 長 | 兼 | 市 | 史 | 編 | 纂 | 室 | 長 | |
| 兼 | 人 | 室 | 長 | 凶 | 書 | 館 | 長 | 兼 | 博 | 物 | 館 | 長 | | |
| 消 | 防 | 本 | 部 | 消 | 防 | 長 | | | | | | | | |
| 小 | 時 | 田 | 光 | 行 | 君 | | | | | | | | | |
| 会 | 計 | 管 | 理 | 者 | 兼 | 会 | 計 | 課 | 長 | | | | | |
| 鈴 | 木 | 純 | 子 | 君 | | | | | | | | | | |
| 子 | 育 | て | 支 | 援 | セ | ン | タ | ー | 所 | 長 | 兼 | | | |
| 総 | 合 | 食 | 育 | セ | ン | タ | ー | 所 | 長 | | | | | |
| 教 | 育 | 部 | 長 | 兼 | | | | | | | | | | |
| 中 | 高 | 連 | 携 | サ | ポ | ー | ト | 室 | 長 | | | | | |
| 澤 | 村 | 一 | 行 | 君 | | | | | | | | | | |
| 教 | 育 | 長 | | | | | | | | | | | | |
| 中 | 浜 | 艶 | 子 | 君 | | | | | | | | | | |
| 代 | 表 | 監 | 査 | 委 | 員 | | 佐 | 藤 | サ | ヨ | 子 | 君 | | |
| 選 | 挙 | 管 | 理 | 委 | 員 | 長 | | | | | | | | |
| 菊 | 池 | 光 | 康 | 君 | | | | | | | | | | |
| 農 | 業 | 委 | 員 | 会 | 会 | 長 | | | | | | | | |
| 佐 | 々 | 木 | 誠 | 一 | 君 | | | | | | | | | |

午前10時00分 開議

○議長（新田勝見君） おはようございます。これより本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

○議長（新田勝見君） これより本日の議事日程に入ります。

日程第1、一般質問を行います。順次質問を許します。9番菊池巳喜男君。

〔9番菊池巳喜男君登壇〕

○9番（菊池巳喜男君） 改めまして、おはようございます。市民クラブの菊池巳喜男です。本田市長におかれましては、このたびの選挙におかれまして、5期の当選ということで、非常におめでとうございます。船で申せば、本田丸の船出だということになるかと思います。

我々議会の提案、議決を決めながら、年間180億から200億の一般予算を決議しているわけですが、10年をたつと1,800億から2,000億になるわけですが。何がどう変わって、これから、この先10年をどのように変えていくのかということ、市長含め当局、そして、我々議会も必要かと思っておるところでございます。いろいろあるわけですが、目標設定や計画が必要だということで、これからの若い人たちが自分の地区に愛着を持って、将来、地元に戻ってきてほしいものだなと思っているわけですが。前段いろいろ申し上げるところでございますが、省略しながら、時間があつたら後で言うということで、一問一答方式で、1項目めでは、国際リニアコライダー、通称 I L C 誘致実現に向けての対応について、2項目めには子どもの貧困問題について、そして、3項目めには地球温暖化対策についてをそれぞれ市長に質問を行ってまいりたいと思います。

それでは、最初の質問に入らせていただきます。

遠野市は、国際リニアコライダー、通称 I L C の誘致実現を見据え、どのような対応を講じていこうとしているのか、順次質問をさせていただきます。

質問に入る前に、盛岡市の対応が紹介されておりましたので紹介させていただきます。盛岡市では、今月20日、国際リニアコライダーの誘致実現を見据えて、地域の国際化について意見を聞く有識者組織を設置し、市役所で初会合を開いたとのニュース報道が次のとおりございました。ちょっと読み上げますが、学識経験者や国際交流、観光、産業分野の委員6人のうち、5人が出席して、座長についた千葉東京理科大学嘱託教授が金ヶ崎町出身のようでございますが、I L C に近い分野で研究してきましたが、盛岡市の文化については白紙の状態だ。皆さんの意見をもとに適切な助言をしたいと挨拶され、会議では、盛岡市で外国人研究者や家族が生活する上での課題を共有、委員からは、英語によ

る生活情報発信の強化が必要、研究者の子どもの教育環境をどう考えているのかなど、意見や問題意識が示されたとのニュースがございました。

現在、今、盛岡市の例を挙げましたが、これをまねをしてくださいとは言いませんけども、誘致対策に向け、遠野市としても何らかの組織づくりを積極的に実行して、遠野市にもいかがですかとアピールが必要なんではないかなと思われませんが、誘致に向けて、何らかの組織を設置していく考えはないものか、最初に伺いたいと思います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 菊池巳喜男議員の一般質問にお答えいたします。

一問一答方式という中での質問でございますので、順次お答え申し上げますけども、まず一つは、この I L C の誘致に向けて、何らかの動きは示さないのかと、盛岡市の例も挙げての御質問でありました。I L C、これは、国際ナショナルリニアコライダーという中におきます国際的な大変大きなプロジェクトであるということは御案内のとおりであります。約50キロにわたる長大トンネルを掘りながら、ビッグバンと言われる宇宙の起源を追求するというような壮大なプロジェクトであるということは、これまた御案内のとおりかというように思っております。ただ、この50キロという一つの中に、この安定した地盤が北上高地の中にあるという中で、世界で唯一という中におきます日本の北上高地がその候補地になっているということも、これも御案内のとおりかと思っております。さまざまな形で、この部分のプロジェクトをという中で懸命に関係機関が取り組んでおまして、県の市長会としても、それぞれ文部科学省あるいは関係省庁にも、この I L C の誘致という中におきます取り組みを進めているということも、これも御案内のとおりかというように思っております。ただ、この I L C のプロジェクトそのものが長大トンネル50キロというもの

が、今、31キロということになり、今度はこれを20キロまで縮小しながら、ステージングという一つの取り組みで、段階的拡張という、そのような取り組みで、とりあえず20キロのトンネルを掘り、そして、この段階的にこれを10キロ、20キロと延ばしていくというような方向に持っていくということで、最終合意がなされたというようにも、これも報告として聞いております。そのようなことを思えば、いろいろ報道等を通じまして、より具体性が高まってきたのかなど、いよいよ大詰めに入ってきたのかなという中で、盛岡市の動きなどもその中で出てきていることになっているかというように思っておりますけれども、当市といたしましても、この分についてはさまざまな形で、この推進協議会の構成員として入っておりますから、いろいろILCの誘致に取りかかっている、取りかかっているのか、関係してのさまざまな遠野の果たす役割ということで、いろいろ、これも情報交換をしながら。昨年12月には盛岡で国際学会がありました。それには遠野市もブースを展示いたしました、日本のふるさと遠野、世界各国から集まる研究者の皆様が日本を知るといふ意味におきましては、遠野も恰好の一つの場所でありますよということ積極的にPRいたしました。また、教育文化振興財団等を通じまして、ILCとは何かという中における小中学生を対象とした講座、これなども開催もいたしております。さらには、昨年4月でありましたけれども、このプロジェクトのキーマンであります高エネルギー加速器研究機構の吉岡正和教授が遠野を訪れました。吉岡正和教授は、この方は今もう退官いたしまして、東北大学の名誉教授、高エネルギー加速器研究機構の名誉教授であり、岩手大学の客員教授にもなっている方でありまして、このプロジェクトの中心的人物であります。その方が遠野を尋ねてまいりました。木工団地を視察しながら、さまざまな形で、世界各国から集まる研究者の皆様がなれば住まいと申しますか、そういった意味においては、遠野の果たす役割は非常に大きいという中でおきまして、い

ろいろ意見交換をすることができました。ちなみに吉岡教授は、また、このJLCと呼ばれておった、ジャパンリニアコライダーと言われておった当時の方でありまして、私も、私ごとになりますけれども、県職員当時、科学技術振興室長をやっておったときに、このJLCのプロジェクトにかかわったという25年前の一つの形、記憶を温めながら、吉岡教授と親しく懇談をいたしまして、さまざま遠野が果たす役割がどのようなものを見出せることができるだろうかという、そのときに吉岡教授のほうからも、この小さなコミュニティーを大切にしながら、まちづくりを行っている。ヨーロッパのまちづくりもドイツのまちづくりなどもよく似ているなというようなことを話しながら、親しく意見交換をいたしましたけれども、そのようなことを使いつつ、これから遠野市の果たす役割、この国際リニアコライダー、ILCの一つの波及効果、あるいは、その意味におきまして、遠野市がどのような役割を果たすかということにつきまして、きちんと情報を分析しながら、遠野市としての対応といったものを決めて、決めてというよりも、対応して、現状に進行形で進んでいるわけでありまして、そこにどのように対応するかということにつきまして、随時判断をしてまいりたいというように考えているところであります。

○議長（新田勝見君） 9番菊池巳喜男君。

〔9番菊池巳喜男君登壇〕

○9番（菊池巳喜男君） 盛岡の次に、先週でしたか、大船渡でも、やはり、推進室を設けたというニュースがありました。ですので、岩手県内では、盛岡、大船渡がそれぞれそういう形で体制を整えているものだと思っておりますので、いろいろ市長との個人的な関係というんですか。JLCの吉岡教授とも交流があるようでございますので、ぜひ、その辺を含めながら、遠野市としても何らかの組織、または、大船渡のような、まねするわけじゃないですが、推進室を今後設けていただければなというところでございます。

そして、次に入りますけども、ILC誘致実現を見据えて、国際化のまちづくり等を考察していく考えはないものなのかを伺いたいと思います。

文部科学省のILCに関する有識者会議では、計画を実現させる場合には、海外の研究者と家族に向けた魅力ある住宅整備が必要であり、国際的に認められる教育施設も要求されると。遠野市としても、その辺を考えていただきながら、誘致を実現していくことをそれこそ前向きにしていかなければならないのではないのかなと思います。人口減少が全国で続いているわけですけども、遠野もその一つになっているわけですが、研究者、そして、その家族の住まいする地域として、積極的に受け入れを構築していくということは意味が大きいと思うところであります。

また、この一連の費用については、政府や参加研究機関などで分担していく、考えていく必要性を有識者会議では上げておるところでございます。このことは、隣接する市町村との連携をもとに積極的な誘致を模索していくべきと考えますが、前向きな考えをお聞かせ願いたいものだなと思います。

先ほどは、木工団地のほうにも、前に教授が伺ったと聞いておりますので、その辺を含めながら、遠野市の考えをお聞きしたいなと思います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 国際化という誘致に向けての取り組みという中で、国際化というキーワードの中で、遠野市としても果たすべき役割があるのではないのかなと、もちろん、そのとおりであります。日本が手を挙げ、その中におきまして、佐賀のほう、あるいは福島の阿武隈山系、あるいは九州の脊振山山系といったような中におきます北上山系が3カ所候補地に上がりまして、その中でいろいろ国際的なプレゼンテーションを行ったと。そのプレゼンテーションを行った一つのその中に、遠野がしっかりと

ビデオの中におさまっていたという部分は、やはり、この遠野の果たす役割、あるいは日本のふるさと遠野、そして、日本といったものをアプローチするためには遠野のという部分そのビデオの中にもおさまられていたという部分を、私どもは、いうなれば、しっかりと受けとめなければならないかというようにも思っているところであります。

そういった中におきまして、今お話ありましたとおり、昭和59年でありますか、イタリア・サレルノとの国際友好都市を結びながら、ヨーロッパとの交流も行ってまいりました。また、ことしの9月15日には、アンディー・バーク市長もわざわざ来援いたしまして、アメリカネシー州のチャタヌーガ市とも国際友好都市を結びました。そして、いろんな人材の育成。これから将来を担う子どもたちの国際的な感覚。そして、また、国際的な視野を持ちながら、いうところの世界に羽ばたくような人材も遠野からということで、いろいろ取り組んでいるわけがあります。また、海外、人、もの・こころ交流推進委員会などを通じながら、経済交流も遠野の身の丈の中で進めようと。しかし、やはり、これはオール遠野がオール岩手になり、今度はオール東北ということにならなければ、やはり、国際的な中における一つの対応ができないんじゃないのかなと。なれば、このILCもこの遠野としての役割のほかにオール岩手としての取り組み、そして、オール東北としての取り組みといったものがしっかりと組ませることによって、国際的なビッグなプロジェクトがここ岩手の地に展開できるということにつながるわけがございますから、そのようなことをしっかりと踏まえながら、それぞれの果たす役割といったものをきちんとわきまえながら、そして、これだけのビッグなプロジェクトの中における国際的な活動なわけでありまして、やっぱり市町村ごとというよりも、私は、基本的には、岩手として、さらには東北としてという、そのような一つの情報を共有しながら、その中で、それぞれの地域がどのような役割を果たすかという

ことをしっかりと確認し合いながら活動を展開していくということが大事ではないのかなと思っておりますので、先ほどの答弁で申し上げましたとおり、遠野の果たす役割といったようなものをその中で見出し、そして、もしも、きちんとした窓口、あるいは、受け皿のようなものも必要であれば、そのようなものに対応につきましては、タイミングを失することなく対応していくということになるのではないのかなというように思っておりますから、これからも推進協議会のほうの連携等十分図りながら、先般、県の理事の大平理事、このプロジェクトの担当をしておりますけども、詳しく説明に参りまして、聞いておりますので、その辺のところを踏まえながら、タイミングを失しない対応をしまいたいというように考えているところでございますので、よろしくお願いたします。

○議長（新田勝見君） 9番菊池巳喜男君。

〔9番菊池巳喜男君登壇〕

○9番（菊池巳喜男君） 市町村ごとよりは、オール岩手、そして、オール東北ということで、情報を共有しながら役割を果たしていくんだということを今市長が述べられました。窓口、そして、受け皿をタイミングを失することなく進めていくんだというようなことも述べられました。そのとおりだと私も思うところでございます。人口減少の一つの策としても、やはり、国際都市の役割もあるわけでございますので、その辺を誘致に積極的にやっていただければなと思っております。

先ほど市長の答弁の中に、50キロのトンネルだということで、それが31キロ、20キロということで、段階的に拡張が最終合意されたということで、具体的に動き出しているというような話もございました。そのILCの建設になった場合のことをちょっとお伺いしたいんですけども、ILCの建設は、いろいろなトンネル工事になるかと思っておりますので、掘り出される土砂ということは非常に膨大なものだと考えておりますけども、現在、それこそ、釜石道の高規格道路関連工事、立丸トンネル工事等も、いろい

ろ終盤に差しかかっているわけでございますけども、やはり、このILC建設が次の大型工事のプロジェクトになるんじゃないのかなと私なりに思っているところもありまして、やはり、それこそ、三陸復興を含めながら、この工事が次に進めばいいなというふうに感じているところもでございます。その中で、これは飛躍した考えかもしれませんが、ILC建設のトンネル整備に伴って、工事の中で発生する土砂の利活用ということで、ちょっと質問させていただきますけども、掘り出される土砂の利活用を遠野市内に持ってきて、いろいろ公共施設の、例えば、風の丘の駐車場とか、東工業団地の拡張工事等々に幅広く活用できるんじゃないでしょうかということで、これは、まだまだ先の話になるかもしれないんですけども、その辺を構想的にどう考えているのかをまず伺います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 先ほどステージングという中で、段階的拡張という方向に持っていくんだという、高額な建設費を少しでも抑えながら現実的なものを持っていこうという方向になったという一つの情報があるわけでありまして、具体的になったとなれば、ただいま申し上げましたような長大なトンネルが出れば、大量な土量が、土砂が、土量が発生すると、じゃあ、それをまた活用してということに当然なってくるというように思っております。その辺をどのようにということになれば、今、質問の中においても、東工業団地の話、あるいは、いろんな土地利用の話など出ました。これはILCの波及効果という部分はもちろんそのようなことになるわけでありまして、いうところの道路のコスト効果といったのも、その中に見出さなければならない。したがって、東工業団地の県の協力をいただくという議論の中に盛んに行ったのは、やはり、この道路が高速道路を含め道路コスト効果が問われているとなれば、岩手県として、この道路のコスト効果をどう生かすのか。ILCというビッグプロジェクトがある。

じゃあ、そのビッグプロジェクトをただトンネルを掘って終わりじゃない。やはり、その中にもどのような波及効果を及ぼすのかとなれば、いろんな機器も入ってくる。そのメンテナンスもしてかなきゃならない。そうすると、メンテナンスをすれば、かなりの高度な技術を必要とするとなれば、中小企業の技術力をはじめ大きく技術力が高まっていくという中で、いろんな波及効果が出てくる。となれば、今のこの大量に出る土量の利活用といったものも、道路のコスト効果等を含めながら考えていくということになるのではないだろうか。そうすると、オール岩手の中で、そのビッグプロジェクトである、このILCの波及効果をどのようにというなれば、土地の高度利用ということにつながってくるんじゃないのかなというように思っておりますので、その辺のところ、いろいろ情報をこれからきちんとアンテナを高くしながら、どうすれば、こういったような波及効果を受けとめることができるのかという部分は、さまざまこの道路の一つのネットワークも遠野にも持ち込まれているわけですから、その辺も含めながら検討していく一つの課題ではないのかなというように思っているところがございますから、よろしく願いを申し上げます。

○議長（新田勝見君） 9番菊池巳喜男君。

〔9番菊池巳喜男君登壇〕

○9番（菊池巳喜男君） そのような形で、波及効果を受けとめながら、道路のネットワークを利用しながら、国としては、来年度予算で幾らかは前向きな予算なり方向が出るんじゃないかなというふうに報道もされておりますので、推進室等々も含めながら、前向きにILCの誘致に向けて持っていければなというふうに思っているところです。

それでは、次の質問に入らせていただきます。子どもの貧困問題についてでございます。日本の子どもの貧困率は改善されてきているということでございますけれども、まだ、先進国と比較すると貧困率が高いという状況にあるデータが発表されております。それで、幾つかの現状を

遠野市としてお伺いをしていきたいと思えます。

最初に、これはデリケートな問題かもしれませんが、子どもの貧困率の定義というのは、18歳未満の子どものうち、平均的な手取り収入の半分、平成27年度では122万円ということがありますが、それを下回る家庭で暮らす子どもの割合を言うということのようでございます。日本全体の子どもの貧困率は、平成26年時点で16.3%、6人に一人の割合であるということでしたが、厚生労働省がまとめた平成27年度の子どもの貧困率は、景気の上向き等によりまして、13.9%に改善され、7人に一人の割合に改善がなされつつあるということの厚生労働省の報告のようです。しかし、先進国が加盟する国際機関、経済協力開発機構、OECDによりますと、2014年、平成26年度時点で加盟34カ国中25位にとどまっているということでした。このような中で、我が遠野市としては、子どもの貧困率の実態をどのように把握しているのかを伺います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） この子どもの貧困という言葉の中で、ただいま、いろいろ質問の中で、我が国の実態といったものがいろいろ述べられておりました。この生活保護も含め貧困という貧しさという問題の中で、これは戦後一貫といたしまして、この貧しさという言葉の中であつたわけでありまして、この子どもの貧困という新たな状態が生じてきているということも、これも私も承知をいたしているところであります。国のいろんな動き、あるいは、いろんな施策ももちろん子どもも承知はしているわけでありまして、この児童扶養手当等を受給している世帯を中心にいたしまして、アンケート調査を行ったデータ等も持ち合わせているところから、詳しく数字を持って、この状態をどのように、遠野市の状態をどのように把握していることにつきまして、担当部長のほうから答弁を申し上げますので、ひとつ、御了承いただければというように思っております。

○議長（新田勝見君） 子育て総合支援センター所長。

〔子育て支援センター所長兼総合食育センター所長多田博子君登壇〕

○子育て支援センター所長兼総合食育センター所長（多田博子君） 命によりまして、お答えいたします。

厚生労働省の発表している子どもの貧困率につきましては、先ほど菊池巳喜男議員がお話したとおりでございます。子どもの貧困率につきましては、厚生労働省が全国の自治体から世帯を無作為に抽出し、生活の状況をアンケート形式により調査するものであり、各自治体の子どもの貧困率までは算出されないという調査方法であります。しかし、全国のひとり親家庭の貧困率が全体の50.8%を占める状況から、市としては、ひとり親家庭へきめ細かい支援を講ずるため、平成27年度、28年度の2か年にわたり、市内児童扶養手当受給世帯に対するアンケート調査を実施いたしました。その結果、265世帯中、213世帯が回答し、就労による年間収入が貧困線122万円の直近値ということですが、100万円以下という世帯が16.8%ございました。

なお、この年間収入には、各種手当は含まれておりません。低収入世帯への支援として、ひとり親と子ども二人の世帯をモデルとした場合、児童手当や児童扶養手当を年額約86万円支給し、支援しております。

そのほか、教育委員会が実施している就学援助制度では、経済的支援が必要な保護者に対し、学用品費、校外活動費、修学旅行費等の一部を就学援助費として支給しているところであります。

平成29年度からは、準要保護児童生徒に係る新入学児童生徒学用品費の支給額の単価を小学1年生一人当たり2万470円から4万600円に、中学1年生一人当たり2万3,550円から4万7,400円に引き上げて支給しているところでございます。

平成30年度に入学する児童生徒がいる世帯に

は、保護者からの申請により入学前に支給することができるように、今定例会の補正予算に計上しているところでございます。

以上です。

○議長（新田勝見君） 9番菊池巳喜男君。

〔9番菊池巳喜男君登壇〕

○9番（菊池巳喜男君） ただいま部長のほうから、アンケート調査を児童扶養家庭のほうから行いまして、そのうち、16.8%がそのような割合だということ、日本全体とも共通するところがあるのかなというふうに感じるところでもございます。それに対しまして、いろいろな手当が遠野市としてもなされているという今報告がございました。それで、次の今支援策に移ろうかなと思いましたが、今、部長のほうから、いろいろ支援策も述べていただきましたので、なんでございますが、日本全体で見ますと貧困率が、遠野も同じような感じでございますが、50.8%と、二人に一人が経済的に余裕がない状況だということ、これは日本全体のお話ですが、食事もきちんととれないこともあり、子どもの貧困対策の一環として、主に貧困家庭や子どもが一人で、孤食と言うんですか、食べられるような家庭を対象に無料や低価格で食事を提供する取り組みとして、子ども食堂の名称で、東京都大田区で始まって、全国にそれが拡大されたということで、全国的な件数は不明でございますが、大阪市では、今年2月時点で、50件が確保されているとの調査もでございます。自治体が開設する例が多いとのことでございますが、その中で最近では企業が社会貢献の一環として、主催するケースもふえているとのことでもあります。遠野市の先ほど部長が述べたことでもありますけれども、そのほか、いろいろな支援策等々もあるかと思えますけれども、部長のいろいろな金額の支援策もあるかと思えますけれども、子ども食堂等々のような形も含めながら、どうなっているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 先ほど申し上げました

とおりに、担当部長からも申し上げました。122万円が貧困線という中で位置づけられて、その結果、50%を超える方々がそういう対象になっている、半数を超えているというような現状があると。遠野市としてもいろんな国の制度など80万円以上のいろんな支給をしながら応援をしているという分もあるわけでありまして、こういった分につきましては、子育てするならば遠野推進本部というものを立ち上げながら、こういった皆様に対するどのようなきめ細かい支援策が必要であろうか、あるいは、どのようなフォローが必要であろうかという分につきまして、先ほど申しました入学前にも支給できるような形での制度の改正もということと充実をということをうたっているわけでありまして、やはり、これもほっとけない一つの課題ではないのかなというように思っておりますので、その辺の支援策のほうにつきましては、当然のことながら、子育てするならば遠野推進本部の中で、あるいは、今般立ち上げた総合力推進本部といった中で、それぞれ関係部署がきちんと情報を共有しながら、それぞれの果たす役割といったものを示しながら、きめ細かく支援、そして、また、フォローしていくということにつながるんじゃないのかなと思っております、必要であれば、その都度、制度の充実、あるいは、支援策の新たな掘り起こしといったようなものも連携を図りながら対応していくということになるかというように思っておりますから、ひとつ、よろしくお願いを申し上げたいと思っております。

○議長（新田勝見君） 9番菊池巳喜男君。

〔9番菊池巳喜男君登壇〕

○9番（菊池巳喜男君） いろいろ改善策、対策、支援策等々、今、述べられましたけれども、子どもの貧困率の要因としては、先ほど来から述べたとおり、ひとり親家庭が上げられているのはそのとおり事実でございます。ひとり親家庭の1割が生活保護世帯となっておるといようなデータもありまして、その中では進学を断念せざるを得なくなるなど深刻な問題ともなっ

ているということでございます。生活保護世帯の高校生が大学などに進学できるように、国では、来年度から給付型奨学金についての支援をしていく方針を打ち出しておるといこととでございますけれども、遠野市としても、その辺も把握しながら改善を進めようとしていると思っておりますが、その辺を伺います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） この貧困という言葉の中で、経済的な負担となれば、大学進学なども諦めざるを得ないというような、そのようなことを事例として、これからも出てくるし、また現実にあるかというように思っておりますから、今さまざま国のほうでも、この教育といったものに対するいろんな無償化議論などもいろいろ行われておりまして、連日、新聞等ににぎわす情報がいろいろ出てきているということも踏まえて、これらをしっかりと情報を把握しながら、確認しながら、遠野市として、どのようなものが国の政策と連動しながらできるかということを考えていかなきゃならないかというように思っているところでございますので、国が行う支援策の内容や、あるいは県及び県内市町村の動きなども、よく状況を見据えながら、それこそ、タイミングを失しないような対応をしまいたいというように考えているところでございます。

○議長（新田勝見君） 9番菊池巳喜男君。

〔9番菊池巳喜男君登壇〕

○9番（菊池巳喜男君） それでは、最後の大項目を市長に伺ってまいります。地球温暖化対策について最後の項目でございますが、質問してまいります。

遠野市では、地球温暖化対策実行計画を策定して、地球環境の保全を掲げ、地球温暖化対策に取り組んでおります。具体的な取り組み状況について、順次伺ってまいります。

温室効果ガスの削減目標と実績値はどのような推移になっているものなのでしょうかといいことで、最近の実績といたしまして、平成28年

度実績がこの11月にインターネットを通じながら、省エネルギーに関する項目、省資源に関する項目の2点について報告がなされております。

省エネルギーに関する項目では、電気、A重油、灯油、LPガス、ガソリン、軽油に区分され、二酸化炭素排出量の実績がはじき出され、これら6項目の合計では、目標率に対する実績値で、18.9%の現実となった旨が発表になっております。灯油、ガソリン、軽油が目標値をオーバーしているとのこともあります。

省資源に関しては、水道使用量、事務用紙、紙ですね、購入量について分類され、水道使用量は前年比6.48%、事務用紙購入では10.74%が増加となっている実績値だということでございますが、これらの報告を踏まえて、いろいろ、これに至った経過等とか、感想を最初にお聞かせいただければと思います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） この温室効果ガス排出の問題でございますが、地球温暖化の問題につきましても、これもそれぞれの地域がきちんと対応しなければ、地球という規模の問題であるわけでありまして、個々のそれぞれの関係者の取り組みが、それをきちんと成果として、あるいは、効果として打ち出すことにつながるわけでありまして、本市としても、これも一つのさまざまな取り組みを行っている。今いろいろ質問の中で数字も出ておりました。したがって、この温室効果ガスのいろんな削減目標の実績値なども含めて、どのような推移になっているかということも御質問の中にございましたので、この辺の状況につきましては、具体的な数字を上げて、今の当市の取り組みの状況について申し上げたいというように思っておりますので、担当の部長のほうから、その辺の推移の状況につきまして、答弁をもってお答えをしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○議長（新田勝見君） 環境整備部長。

〔環境整備部長佐藤浩一君登壇〕

○環境整備部長（佐藤浩一君） 命によりまして、菊池巳喜男議員の質問にお答えいたします。

まず、地球温暖化とは、温室効果ガス等の影響により地球表面の気候や海洋の海面温度が長期的に上昇し続ける状態を指しております。温室効果ガスには、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン等、さまざまな種類がありますが、市役所業務全般に係る地球温暖化対策を定めた第3次遠野市地球温暖化対策実行計画においては、このうち、排出割合の98.4%を占める二酸化炭素の削減を目標に設定し、対策に取り組んでおります。本年度の二酸化炭素削減目標は、平成26年度を基準年度とし、平成32年度までに総排出量の5%削減を目標としております。平成28年度は、1万4,558トンCO₂という目標に対しまして、1万1,811トンCO₂という実績となっております。二酸化炭素の排出量は、電気、A重油、灯油、LPガス、ガソリン、軽油の使用料にそれぞれ国が定めた係数を乗じて求めるものであります。市の業務全体で排出される二酸化炭素のうち、電気から排出される割合が最も大きく、全体の約7割を占めております。このことから、二酸化炭素排出量の抑制策として、電気の節約を中心とした取り組みに重きを置いております。御質問にもありましたように、目標値を達成できなかった項目も一部ありましたものの、遠野市、遠野市役所全体としては、目標値よりも18.9%下回る二酸化炭素排出量となり、目標を達成することができております。

なお、二酸化炭素排出量実績値は、平成25年度以降、毎年減少傾向で推移しております。地球温暖化対策実行計画の着実な遂行を実感するものであり、今後とも地道な努力を続けてまいります。

以上であります。

○議長（新田勝見君） 9番菊池巳喜男君。

〔9番菊池巳喜男君登壇〕

○9番（菊池巳喜男君） 今、担当部長のほうから詳しく報告がございましたけれども、このことは、平成28年度実績報告書という形で、第3

次遠野市地球温暖化対策実行計画に基づいた形で報告書がなされております。温室効果ガス、温暖化の対策の取り組みということで、効果を直ちに実感できる項目が少ないわけですが、いかに継続して、意識、そして、動機づけを行っていくことが必要なのかということが課題になろうかと思っております。オフィスの節電などは、ポータルサイト等々で呼びかけているなど、持続した啓発活動や具体的な取り組みが必要であることをございました。しかし、人的な取り組みだけでは限界があることから、施設や設備の更新時には、効率の高い設備の導入、更新の検討も必要とまとめております。

この新庁舎におれまして、チップボイラー等々の活用もその一例かと思っているところでございます。

先ほど報告書の中に、省資源に関する項目の中には、水道使用量、そして、事務用紙の購入量についてありましたが、特に、私がちょっと気になるところが申し上げますと、事務用紙、紙の購入でございますが、やはり、26年度、27年度、28年度と平成ですね、ふえているわけでございます。それで、事務用紙の購入の対策といたしましては、どのような形をとっているのかというようなことで、我々議会といたしましても、いろいろタブレットの導入等でペーパーレス等々もやっているわけでございますけれども、いろいろ検討しているわけでございますが、全体的に各種の会議等で紙の用紙というんですか、会議資料、これに関しましては、いろいろこれから、例えばプロジェクターを使うとか、先ほど言ったタブレットを置いて、それで、紙等々の節約をすとかいろいろな考えがあるかと思っておりますけれども、その辺、温室効果ガス排出量削減の今後の取り組みに関しましてお伺いしたいと思います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 先ほど取り組みの状況につきましては、担当部長のほうから数字を上げて御答弁を申し上げます。今具体的な取り

組みについてという中でいろいろ事例を上げながら御質問があったわけでありまして、その中にありましたとおり、この本庁舎もチップボイラーを導入した一つの熱源をそこを求めているという部分の中で、これも循環型として、環境に優しいという中で、言うなれば、チップにし、それを燃料にしながら、そして、一方においては、川上、川下という一つの中における循環型の一つのエネルギーをこの中に求めている。あるいは太陽光発電、あるいはLEDの照明の設備といったようなものを、省エネルギーという中におきます対応として、この本庁舎の中にも持ち込んだということになろうかというように思っております。

この部分につきましては、推進員を各課に置きながら、きちんといろんな、今ペーパーレスの話も出ましたが、紙の再生、あるいは裏紙を使う、あるいは再生紙に持ち込むというような中における一つのコントールをその推進員が、エコリーダーという言葉があるわけでございますけれども、エコリーダーのような中で、それぞれ職員が自覚をしながら取り組んでいるということにいたしております、そのようなものが、ある意味においては一つ一つ結果として、あるいは効果としてあらわれているのではないのかなというように捉えているところであります。

また、この二酸化炭素の一つの削減といったものを含めましては、やっぱりカーボンニュートラルという特性を有している木材の利用をうまくやっぱり活用していかなければならないのかなと思っております。これが木質バイオマスという言葉の中であらわれているということになろうかと思っておりますから、遠野ならではの分につきましては、またこのこだわりもまた持たなければならぬかなというように思っております。

さらに、今、御質問の中にありましたタブレット導入などをもってペーパーレスと、これも一つの時代の流れかというように思っておりますので、ただ、やっぱり紙情報といったものを

どのように受けとめるのか、ああいうタブレットのようなものをしながら、徹底的なペーパーレスというのに持ち込むのかという部分につきましては、やはりこれはもう少し議論してみてもいいのじゃないのかなというように私は個人的には、個人的にというよりは、この場に立って個人的な言い方はちょっとできないわけでありまして、この紙情報というものとタブレットといったものについての、何と申しますか、バランスと申しますか、その辺については、もう少し議論を深めてもいいのかというようなことを思っているわけでありまして、しかし、一方においては、時代の流れをしっかりと受けとめなければならないということも、これも当然でありますので、このタブレット導入といった問題につきましても、もっと議論を深めていただければなというような感じであるところでありまして。

あるいは会議資料など、今、いつも庁議を行っている、あるいはいろんな会議を行っているときにも、基本的にはペーパーレスという中で、言葉でそれぞれ情報を共有する、あるいはメモをとって情報を共有するという部分の中で、何かあればコピーをとってすぐ配るという分については、できるだけこれをみんなで変えようじゃないかということも申し合わせをしながら対応していることですので、そのような一つ一つの積み重ねが、いうところの地球温暖化というものに対する一つの取り組みとして、結果が、あるいは効果が出るということにつながるのではないのかなと思っております、繰り返しますが、本庁舎のこのチップボイラーの対応なども、これから厳しい寒さになってくるわけですので、何となく熱源がチップボイラーだということを思えば、その暖房もほっとほのかな温かさを感じるという部分も、これも一つの大きな効果ではないのかなというように思ったりもしておりますので、そのことも申し添えまして答弁いたします。

○議長（新田勝見君） 9番菊池巳喜男君。

〔9番菊池巳喜男君登壇〕

○9番（菊池巳喜男君） 各課に推進員を置きながら、いろいろ職員のそういう自覚を行っているんだということもございました。

いろいろ先ほど来から言っている事務用紙の紙の購入量が1割もふえているというようなこともありまして、私も述べたわけでありまして、やはり、今、市長のほうでも答弁がありましたとおり、会議等々かなりの紙等々が資料として出されているわけですので、タブレットのような機器、それから、併行して必要な人には紙、タブレットでもというような人はタブレット、併行しながら議論を進めていけばいいのではないのかなと、私なりに思うところでございます。

それで、最後の質問になろうかと思っておりますけれども、遠野市では、こういう形で、第3次遠野市地球温暖化対策の実行計画のもと、平成28年度の実績報告が年度ごとに出ているわけですので、このことに関しまして、遠野市民とか市内の各企業等々に、こういう意識啓発は徹底されているものなのかということで、ちょっとお伺いしていきます。

こういう市役所でこのように地球温暖化対策を実施しているわけですので、市民の皆さんにこういうことをきちんとお知らせして、こういう皆さんの税をきちんと効率的に地球温暖化のためには節電をしながら、節制に努めながらやっているんだということをアピールしていくことが肝要と思われるところでございます。その辺どのような意識というんですか、啓発をされているのかを伺って、私の一般質問とさせていただきます。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいま地球温暖化というのは大きなテーマの中で、遠野市が取り組んでいる状況につきまして、いろいろ一問一答の中でやり取りをさせていただきました。やっぱり今の御質問の中で、それぞれ市役所の取り組んでいるのはわかると、皆、関係者も取り組

んでいるのもわかる。しかし、やっぱり市民一人ひとりにどのように啓発をしながら、まさにまちぐるみ、地域ぐるみ、遠野でもってどのような取り組みをしているのかということが、やっぱりきちんと周知をしながら理解し合うことが大事ではないだろうかという、そのような御質問等を承ったわけでありませうけれども、これは最も本当に基本であろうかというように思っております。

環境基本計画を策定しながら、それで市民の果たす役割、事業所の果たす役割、あるいは関係機関、団体の果たす役割、あるいは観光客も含め交流人口で遠野の来る方々の果たす役割といったようなものを、環境基本計画の中で明確に位置づけをしながら、それを学校の現場で、あるいは職場でという中で、地道な取り組みを行っているという一つのあらわれの中に、環境フロンティア遠野という一つの組織があります。これは、市民団体が組織をいたしました団体でありまして、非常に充実した内容の活動を行っております。先般も、この環境フロンティア遠野の大会があったわけでありませうけれども、やはり、遠野の自然は、あるいは環境はといったようなことを、いろんな中学生の事例発表、あるいはこの遠野の環境問題で、常に現場から発信しております市勢振興功労者の葛西四郎先生の特別講話といったようなものもあって、みんなでやっぱりこの問題を考えようという中で、常日ごろから環境問題に極めて地道な取り組みをしている方々の表彰があったり、いろんな写真展示があったり、そのような中で、この大会が、フォーラムが行われました。そしてまた、その中で通じて私自身も知るところとなったと申しますか、学校現場で、やっぱり小学生、中学生の皆さんにきちんとこの環境問題に向き合う、さまざまな教育を行っているということもその中で改めて知るところとなったということもございますし、また、いろんな団体の方々、いろんなボランティア団体の方々も含めまして、環境問題あるいは地球温暖化問題に取り組んでいる事例がたくさん出てきておりますから、やはり、

これを一つ一つ着実に実施する中から、エコあるいは地球温暖化、二酸化炭素削減といったような、そして、さらには、水質汚染なども含めながら、やはり環境問題に対する遠野としての徹底したアプローチを行っていくということが、やっぱり基本ではなのかなと思っておりますのでございますから、そのような気持ちの中で取り組んでまいりたいというように考えているところであります。

○9番（菊池巳喜男君） これで、一般質問を終わります。

○議長（新田勝見君） 10分間休憩いたします。
午前10時58分 休憩

午前11時09分 開議

○議長（新田勝見君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に、進みます。5番瀧本孝一君。

〔5番瀧本孝一君登壇〕

○5番（瀧本孝一君） 今定例会、一般質問6人目、最後の質問者であります市民クラブ所属の瀧本孝一です。

事前通告に従い、今回は「全国わさび生産者大会の総括と今後の生産拡大支援等について」と「行政組織再編について」の2つのテーマについて、市長に対し、一問一答により質問をさせていただきます。

あと一月足らずで新しい年を迎える時期となりました。今年を振り返るのは少し早いかもしれませんが、夏以降の不順な天候に泣かされて、秋じまいもなかなか思うように進まず、米の作柄などにも影響があった中で、市長選挙、市議会議員補欠選挙、衆議院議員選挙が執行され、市長選挙においては、本田市長が当選されたことにまずもってお祝いを申し上げる次第です。

今定例会初日、市長には、これからの4年にかけての所信表明演述がなされたところでありますが、合併後、3期の無競争当選の実績は実績として、批判票の重みも鑑みながら、地方の小さな一自治体のトップセールスマンとして、これまで築いてこられた国や県をはじめ全国のネ

ネットワークと絆に今まで以上に磨きをかけ、一層の連携と関係構築を深めていただきたいと願うものであります。

さらには、伸展する少子高齢社会の現実を厳粛に受けとめつつも、市民福祉の向上と山積する課題の解決、とりわけ「産業振興・雇用確保」と「少子化対策・子育て支援」の2つの優先方針や第二次遠野市総合計画の着実な具現化への取り組みなどに、これまで以上に健康に留意されながら、ますますの御活躍を御期待申し上げます。

さて、10月6日金曜日に全国わさび生産者協議会と岩手県わさび生産者協議会の主催により、第51回全国わさび生産者大会及び第32回全国わさび品評会が当市を会場に、旧宮守村時代に平成元年に開催されて以来、約30年ぶりに開催されたことは記憶に新しいところであります。

当日を挟んで、前日、翌日を加え、3日間の期間に全国各地や県内の生産者の皆様が、大会式典や品評会はもとより、大学教授による「わさびの健康効果について」と題した講演会や現地視察見学などに来遠されたことと思います。

私も品評会や講演会をのぞいてみたかっただのですが、残念ながら、当日は岩手中部広域行政組合の定期監査・決算審査などと重なってしまい、岩手中部クリーンセンターに赴かなければならず、根わさび生産者を多く抱え、遠野宮守わさびの生産地達首部の地元の一人として、雰囲気味わい知ることができなかつたことが心残りであります。

大会を開催された生産者協議会の皆様、裏で支えられた県や市の担当部署をはじめとする関係者の皆様に、この場を借りて御慰労を含め、敬意と感謝を申し上げます。

そして、品評会で県知事賞の栄に輝いた福地さんをはじめ、先般の第9回遠野市農林水産振興大会のむらづくり活動・文化部門において表彰された遠野わさび生産者協議会の皆様をはじめ各部門で表彰に浴された皆様にも、これまでの御苦勞に対し、敬意とお祝いを申し上げる次第です。

受賞者を代表して謝辞を述べられたわさび生産者協議会の会長、佐藤さんの言葉が印象に残りました。

「今般の全国大会の開催や受賞により、今までの宮守わさびがやっと遠野わさびになった気がする」という、時代の流れと狭い地域にこだわらない前向きな考え方を言葉に表現されたことに共感を覚えずにはいられませんでした。

私のわさびに関する質問は、5年前の平成24年12月議会での「農産物特産品の振興について」と題しての特産品わさびに対する認識や全国大会開催の誘致をお願いした質問に端を発し、当局の担当者や生産者協議会の御理解で今回の全国大会開催に結びつけていただいたものと勝手に思っているところであります。

また、3年後の平成27年12月議会では、わさび栽培100周年を記念して行われた祝賀会のことなどに関し、「特産品わさび生産の更なる振興について」と題した質問を含め、今回で3回目となります。

そこで、全国大会開催の総括として、三たび、遠野市の特産品としての知名度アップや生産意欲の向上、また生産量・栽培面積の拡大、支援制度の拡充につながることを願いながら、以下、順に質問をしてみたいと思いますが、最初の質問は、先般の全国わさび生産者大会を本市で開催したことの意義や結果の概要において、どのように捉えているのかについて、伺います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 瀧本孝一議員の一般質問にお答えいたします。

全国わさび生産者大会における開催結果と、その波及効果と申しますか、それがどのようだという部分の中での一問一答、さらには組織再編についてという2項目につきましての一問一答方式でありますので、順次、お答えを申し上げます。

全国わさび大会、質問の中にありました、それぞれその機会ごとにこの問題について取り上げてきた。約30年ぶりの全国大会がここ遠野で

行われた。非常にそのものを思えば、宮守わさびという100年を刻んだ歴史を踏まえての取り組みであったわけでありまして、この100年というときを刻みながらの確固たる地位を築いた宮守わさびが、佐藤さんの言葉に代表されるということで今質問の中にありましたけども、遠野わさびという中で一つブランドとしての地位を確立したのかと思うという、そういう発言がこの全国大会の場でも出たという部分は、何とかして産業振興を、遠野ならではのこだわりの中でという部分で、生産者の皆様がそれをしっかりと全国に発信していただいたのではないのかなと思っておりまして、私も市長という職をいただいている立場といたしましては、本当に感慨無量のものがある。

実は30年前も私も県職員の立場でありましたけども、宮守で行われた全国わさび大会に出席したという経緯を思い起こしながら、そのときの経過を感じながらも、改めて皆様のひたむきな取り組みに敬意を表するというような大会であったのではないかと考えております。

全国大会の結果概要等についてということでありましたので、県や市の関係者も懸命に努力をしていただいたというお話も質問の中でいただきました。

担当部長のほうから、その結果、概要について数字をもっての御報告を答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

○議長（新田勝見君） 農林畜産部長。

〔農林畜産部長兼六次産業推進担当部長 古川憲君登壇〕

○農林畜産部長兼六次産業推進担当部長（古川憲君） 命によりお答えいたします。

全国大会開催の結果概要についてでございますが、全国わさび生産者大会は、全国の生産者の県単位の12の生産者団体で組織され、生産者大会は3年に一度、全国持ち回りで開催されております。

今回は、平成元年に旧宮守村での開催以来の遠野市開催となりました。

大会には、全国から生産者約180名、来賓、

実行委員等関係者、講演会に参加した市民等を含めると約300名が参加しております。

品評会には、根わさびの部160点、遠野市からは30点の出品がありました。それから、畑わさびの部が21点、遠野市からは2点が出品されております。

最高賞の農林水産大臣賞をはじめ、特賞が7点、優秀賞は遠野市長賞をはじめ13点、奨励賞は実行委員長賞として30点が表彰されました。

本市からは、特賞の岩手県知事賞に達曾部町の生産者、福地孝市さんが、優秀賞、遠野市長賞ですが、佐藤寛之さんが、奨励賞に多田嘉一さんがそれぞれ表彰されました。

遠野大会には内外より一定の評価もいただいております、総じて盛会裏に終了したものと受けとめております。

以上です。

○議長（新田勝見君） 5番瀧本孝一君。

〔5番瀧本孝一君登壇〕

○5番（瀧本孝一君） 今、概要について数字をもって答えていただきました。わかりました。

次に、全国大会を通して、本市におけるわさび生産と県内の他生産地や県外の生産地の特徴的な違いや、この大会からどのようなことを学び、今後に向けて、何をなすべきかについて、生産者の方々の目線とは別の特産品振興施策など、行政の視点から参考となるような取り組みがあったら、その感想や見解をお尋ねいたします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） ただいま、大会の概要につきましては、数字をもって担当部長のほうからも答弁を申し上げましたけども、全国大会に私も出席をさせていただきました。いろんな記念講演、あるいは事例発表等が行われておまして、その中でやはり行政としてもしっかり学ばなければならない部分があったという中で、例えば、山口県の農林総合技術センターで研究されている研究結果、これは私も大変参考になりました。超促成栽培の説明といったような取

り組み、あるいは、佐賀県農業試験研究センターによる根わさびの管理が楽になる佐賀県養液栽培装置の説明といったようなもので、1年1作というようなどころに取り組むことも可能だという説明というか、発表があったことなども、やればできる、いろんな工夫をすれば、まさにイノベーションと申しますか、技術革新といったようなものを持っていけばまだまだ取り組める、あるいはやらなきゃならない、一つの課題があるんだなど。課題があるというよりも展望が開けるんだなどというようにも事例発表の中で改めて私自身も学んだというような事例もありました。

あるいは、この記念講演では「わさびの健康効果について」という一つのテーマでもちまして、大学のお医者さんでありますけれども、医学博士の茨城キリスト教大学の名誉教授の先生のお話などもありました。これなどはいろんな形で、板倉先生という先生でありますけれども、その先生の記念講演を聞いておまして、わさびは日本の伝統的な健康食品であるという切り口で、いろんな解毒作用や抗がん作用もその中で見出すことができると。健康志向がすごく高まっている。そういった中で、この遠野わさび、宮守わさび、懸命に取り組んでいるわさびというものには、そのような、一つの健康志向にもきちんとマッチングする、安心して安全な一つの農産物であるんだなどということも確認できたという部分におきましては、関係者の皆様ももちろんでありますけれども、お互い情報交換をしておりましたから、そのような部分においてのいろいろとお互いの情報交換をしながら交流をし、そして、またよりよりのものを、我々行政関係者もその他の関係機関も、今、申しあげましたような内容の中で「ああ。そうなんだ」ということを知ることでもできたという部分におきましては、平成元年以来28年ぶりと、約30年ぶりの大会が遠野市の特産品としてのわさび栽培といったものに大きく、まさに、次のステージに持っていく一つの場としての全国大会ではあったのではないのかなというように思っております、

学んだことが多くあったということを申しあげて、答弁いたします。

○議長（新田勝見君） 5番瀧本孝一君。

〔5番瀧本孝一君登壇〕

○5番（瀧本孝一君） 市長におかれましても、学ぶべき点が多々あったということでございました。

次に、私の記憶に間違いがなければ、本市では附馬牛地区の大洞と大野平の2カ所で、淡水魚の養殖施設を使って根わさびの試験栽培を実施していると認識をしています。

市が主体的にやっているのか、わさび公社がやっているのか、そのあたりはよくわかりませんが、試験栽培の様子が伝わってきているとは思われません。

根わさびは植えてから2年ほどたたなければ結果は出ないかもしれませんが、その試験栽培の状況や今後の可能性など、現時点で答弁できるものがあつたら、お知らせをお願いします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） この根わさびの部分における試験栽培の状況についてということで、淡水魚の施設を試験栽培の状況にという部分についての御質問であったわけであります。

これにつきましては、根わさびの試験栽培は、平成27年度に附馬牛町の大洞地区にある淡水魚のセンターで、これはヤマメの採卵・ふ化を行っている施設でありますけれども、もう一つは、大野平のほうにもその施設があるわけでありまして、ヤマメの飼育をやっているわけでありまして、一部を借りて、それぞれ試験栽培を行った。これは約10坪程度でありますから、小規模で行ったという状況です。

ただ、この中で、報告を受けているところでありまして、どちらもわさびの生育は順調であったと報告を受けているところでありまして。

根わさびは、年間を通じまして、一定範囲の水温そのものが15度以下という中で環境が保たなければならないという一つの条件があるわけでありまして、それは一つクリアはされ

たのではないかなと報告を受けているところ
あります。

ただ、この部分につきまして、大洞地区のほ
うは、ある意味では、水系そのものはカルスト
水系の中における達曽部と同じような水系の中
にあるということでもありますので、その辺の可
能性をしっかりと検証しながら、この根わさび
そのものの生育というか、栽培そのものをどの
ような形で広げていくのかにつきましては、ま
だまだ検証し、また確認しなければならない事
項がたくさんあるわけでございますから、それ
を一気に、この部分の中とはならないのでは
ないのかなと。もっと慎重に、それぞれの淡水魚
の環境をどのように持ってくるのか、あるいは、
根わさびの部分をもどのように広げていくのか、
その場合における、この大洞、大野平の場合、
はどのような位置づけの中で整理をしていかな
きゃならないのか。その辺をつくる課題がまだ
きちんと見えてきておらないというのがありま
すので、あくまでも試験栽培の中で10坪ほどで
やったならば、できるんじゃないかなというよ
うな、一つの検証結果を得たという段階で今あ
るということでもって、承知をしていただけれ
ばというように思っております。

○議長（新田勝見君） 5番瀧本孝一君。

〔5番瀧本孝一君登壇〕

○5番（瀧本孝一君） 面積的には10坪程度と
いうことで、まだまだ検証をしなければなら
ない部分があるということでした。

次に、特産品としての認識や魅力の発信につ
いての質問ですが、わさびは和食、特に刺身や
お寿司にはなくてはならない香辛料であり、ぴ
りっと辛みが効いてこそ本来の料理を美味しく
引き立てる、いわば脇役であります。

達曽部地区で栽培が始まって102年、先達か
らこれまでの生産者の地道ながらたゆまぬ努力
で今や東北一とされる根わさびの産地となりま
した。

一方では、青笹町中沢地区などに畑わさびの
生産地の拡大が続いており、大変喜ばしいこと
と思っております。

話は少しそれますが、今、本市では県教委が
主導する遠野高校、遠野緑峰高校の再編問題で
署名活動が行われ、県議会や県教委に署名簿を
提出し、存続要望活動が行われています。

特に、ホップ和紙の研究で実績を上げ、数々
の賞を受賞している緑峰高校の生産技術科の皆
さんには敬意を表するものですが、農業系の高
校という観点からわさびにも関係していただき、
何らかの形でわさびの魅力をも若い視点で発信
していただけないものか、高校存続と絡め、検討
の価値があるのではと私は考えてきました。

というのも、宮城県立加美農業高等学校の農
業科では、授業実習の一環として、わさびのク
ローン苗を昨年まで年間4,000本を生産し、近
くの葉来わさびという生産地に供給販売をして
いる高校が実際にあります。本年度は、担当職
員の異動などで苗の生産は300本ほどで、来年
度からは、また順次以前の実績に近づけていき
たいという旨を先日実際に電話で確認したとこ
ろでもあります。

決してまねをしてほしいということではあり
ません。このような実業高校の取り組みの事例
もあることを御認識いただきたく、一例を紹介
しましたが、本市の特産品としての認識の度合
いや、味はもちろんのこと健康効果や殺菌効果
もあるわさびの魅力（味力）などを、さまざま
な角度からどう発信していくのかについて、市
長の見解をお尋ねいたします。

その前に、さきのわさび全国大会のチラシが
こちらです。表面はわさび圃場の写真と大会日
程等が印刷されていますが、残念なことに、裏
面は全くの白紙であります。情報発信とコマー
シャルのあり方からもったいない限りであり、
全国に遠野わさびを発信するチャンスに、より
効果的な発信のあり方が問われる事例とも思わ
れますので、あえてごらんいただきました。

御答弁をお願いします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） わさびを通じ、全国に
発信をという中で、遠野緑峰高校とのまさにコ

ラボレーションと申しますか、連携などはいか
がなものであるかという提案型の御質問等を承りまし
た。

先ほど、菊池巳喜男議員との中で、環境問題
でペーパーレスの話をいろいろ取り上げていま
した。ビラの裏が白紙であったと。もったいな
いという、そのような。

しかし、これはこの例ばかりじゃなく、随
所にこのようなペーパーの利活用につきまして、
もったいない事例を私もその都度感じていると
ころでございますので、もっときめ細かく、何
をお知らせするのか、何を知ってもらうのか、
あるいは、どういう方々に何を訴えるのかとい
った一つの心遣い、それは必要ではないのかな
ということも、改めて私も常に感じていること
を申し上げたいというふうに思っている次第で
あります。

さて、この緑峰高校との連携問題につしまし
て、実は先般、つい二、三日ほどでありますけ
ども、経済同友会のミッションが遠野入りをい
たしました。いうところの、産業そのもののイ
ノベーションをどのように持っていくのかとい
う、この遠野のさまざまな取り組みを視察、現
場で見たいという、そのような一つのミッシ
ョンでありました。

その中に、岡野さんという経済同友会の専務
が一行に入っておったわけでございますけれど
も、遠野緑峰高校の有機における伝統野菜、遠
野早池峰菜の栽培とその生産拡大と申しますか、
その論文が産業教育振興中央会という大きな組
織があります。その中央会から経済同友会賞を
差上げると。この経済同友会賞というのは、
経済同友会は御案内のとおり、産業界の代表の
方々の、経団連と並ぶ大きな全国組織なわけ
であります。そういったところで、いうところの
金・銀・銅ということでランクづけすれば、銀
賞に値する賞だという中で、遠野緑峰高校の生
産技術科の早池峰菜に取り組んでいる8人の生
徒諸君に経済同友会賞をという授与式がありま
した。私も立ち会いました。生徒諸君は立派な
態度であり、挨拶でありました。

そのような中で、懸命に取り組んでいるとい
う部分を踏まえれば、このわさびもまさにいろ
んな形で連携がとれるんじゃないのかなという
ことを感じているところでもあります。

ちなみにわさびのディップソースであるとか、
あるいは、わさび入りウインナーであるとか、
あるいは、わさびコロケといったようなもの
がいろいろ新商品として開発され、またそれが
遠野市のこだわりの中で商品となって出ている
ということもあります。したがって、この新開
発商品、こういったようなものも先ほどの全国
わさび大会の場におきましても、関係者の皆様
に味わっていただいたということもあるわけ
でございますから、このようなものをどんどん開
発しながら、遠野のこだわりを発信していく
という部分、そして宮守わさび、遠野わさびとい
ったものの存在感をこの圧倒的な中で対応して
いく。

いろんな、全国、遠野わさび加工品につしま
しては、わさび大会のときもそうでございます
けれども、例えば、馬力大会などにおいても、そ
のようなものを記念シールなどを張りながら対
応している中で発信に努めているということ
であります。

今、御質問のありました遠野緑峰高校との連
携につきましては、瀧本孝一議員の御提案のと
おり、これはやはりきっちりと連携を図ってや
るということによって、やっぱり産業教育、実
業高校、それから地域密着型、そして生徒数で
はない、40人学級の議論ではない、25人でも、
あるいは20人学級でもきらきらと光る立派な地
域密着型の中においてのさまざまな教育ができ、
あるいは地域を発信し、そしてまた一方におい
ては、さまざまな地域活動も支えるという人材
が地元にいるんだという部分をやはり県教委の
ほうにもしっかりと理解してもらわなければなら
ないのかなという。そのためにも、遠野の誇
るべき100年の歴史を誇るわさびというものを
通じながら、緑峰高校との連携を図り、生産技
術科、あるいは、情報処理科といったような、
一つの存在感をきちんと示すということが求め

られているのではないのかなというように思っております。

これにつきましては、御提案の趣旨に従いまして、よく遠野緑峰高校の現場と、今、中高連携室を設けておりますので、その部分からもしっかりとアプローチしながら、あるいは、今度は4月以降は産業部となり、商工観光課も、あるいは農林畜産部も一つの農業振興課もワンフロアの中で一つの組織になるわけでありますから、これをしっかりと組織の再編のメリットを生かすという部分におきまして、このような一つのプロジェクトをしっかりと仕組みに持っていくということに取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

○議長（新田勝見君） 5番瀧本孝一君。

〔5番瀧本孝一君登壇〕

○5番（瀧本孝一君） 緑峰高校が経済同友会から表彰されたということは私も新聞で知りましたし、ぜひとも高校と連携を深めていただいて、わさびの情報発信をきめ細かくしていただければ、ありがたいなと思います。

根わさびはきれいな水はもちろんのこと、地形などの条件が大事であり、畑わさびも直射日光が当たらず、ほどよい林の中が適地であるようですが、どちらも生産者が限られ、高齢化や後継者問題も浮き彫りになってきていることが先般の農林水産振興大会のオープニングで上映されたDVD映像からも知ることができました。

わさび農家の方から聞いた話ですが、圃場を更新するにしてもかなりの費用がかかり、雪の重みでビニールハウスが潰されたり、強風などでビニールが剥がされたりした場合、共済制度はハウス1棟だけ壊れたとしても、その農家が所有する全部のハウスに保険をかけていなければ保険金はおらず、保険料が高額になるため共済に入っていない人もいるのが実態のようです。

そこで、特産品産地の保護や持続可能な経営、さらには生産量と面積の拡大でこれまで以上の知名度アップとわさび農家の生産意欲の向上につながる支援制度の拡充施策が極めて重要であ

ります。現在のアストパワーアップ事業などでも多少は該当する部分もあるかもしれませんが、ぜひとも生産農家の期待に応える制度のあり方や、今後の方針について、伺います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） わさびを通じて全国大会の開催結果をまとめながらさまざま一問一答の中でやりとりをしてまいりました。一つの遠野としての特産品としてのわさび、それをもって全国に発信をするという一つの手応えを感じたという部分もあるわけでございますけれども、一方においては、ただいまの御質問にありましたとおり、生産基盤、それを、施設も含め環境も含め、あるいは、後継者の問題も含め、しっかりしたものに持っていかなきゃならない。ただただ発信をしたというだけでは、やはり生産基盤というものがしっかりしてこそ発信ができるということになるわけでございますので、ただいまの御提案があった、御指摘があった部分につきましては、しっかりと受けとめなければなりません。

六次産業という中で産業の一つの振興を図ろう、そして特産品化を図りながら、遠野のこだわりをとる部分が一つの遠野の農業の一つの大きな切り口なわけでございますから、そういった場合におきましては、私はわさび公社の果たす役割といったものにつきまして、改めて問い直なければならない。あれを充実、強化という中に持った場合に、他の一つの類似のと申しますか、例えば、遠野ふるさと公社のような組織をどのような連携をとったらいだろうかという部分も、また一方においては考えていかなきゃならない。さらには先ほどその質問の中にありましたけれども、淡水魚漁業協同組合があるわけでありまして、これもヤマメ生産ということに取り組んで、一億産業とまで言われた部分がやはり後継者不足、あるいは高齢化という中におきまして、やはりこれもかつてのパワーがもうなくなってきているということもあるわけでございますから、その辺のところをどのように、

試験栽培をやったからそれで、あるいは、ディップソースのようなものを、コロッケを発売したからそれでということではなくして、では、公社の役割は、あるいは、淡水魚漁業協同組合の役割は、ではわさび公社の一つ果たす役割は、では、生産者の方々はそこに対してどのようにアプローチしたらいいのか、では、関係団体、農協も含め関係団体はどのようにそこにかかわっていったらいいのかという部分をやはりいろんな切り口から検討をし、それを整理して再編するという中から充実、強化といったところが見えてくるのではないかというように思っておりますので、今進めております経営改革担当部長を民間から招聘いたしまして、さまざまな組織にメスを入れていただいておりますので、わさび公社などもその一つの中でしっかりと現状を分析しながら、いうところの、充実、強化と、これだけの成果を上げてきているわけでありますから、充実、強化というような、一つの方針の中から見直しをし、検討をしていくということになるのではないのかなという認識でおりますので、これからも御指導をよろしくお願いを申し上げたいと思っております。

○議長（新田勝見君） 5番瀧本孝一君。

〔5番瀧本孝一君登壇〕

○5番（瀧本孝一君） 生産農家への補助金をぜひ充実をしていただきまして、わさび公社ともども今後とも御支援を願います。

地元達曽部も根わさびをはじめ生産量が拡大している畑わさびの特産品としての強固な地盤確立を願いながら、次の質問である行政組織再編についてに移ります。

次の質問である「行政組織再編について」に移ります。

このテーマについては、先月21日に開催された議員全員協議会において、概要の説明がなされました。

きのうも先輩の浅沼幸雄議員から「組織再編の目的と期待される成果について」と題し、質疑が交わされたところでありますが、私も昨年の9月議会において「予想される行政組織再編

の内容や方向性とあり方について」ということで、市長に質問をした関係もあり、重複する部分もあると思われませんが、先般の本庁舎完成を機に、来年4月実施確定ということから、今回、また質問をさせていただきます。

最初に、きのうの浅沼幸雄議員の質問と重複する部分ですが、広く市民の皆様の御理解と周知を図る意味から、差し支えなければ、簡単でよろしいですので、本日も復習の意味を込めて、改めて本庁舎の完成により、機能集約化に伴う組織再編の目的や基本方針について、簡単にお尋ねいたします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） この問題につきまして、昨日も浅沼幸雄議員の御質問の中でもお答えを申し上げているところでもありますし、また、さまざまな機会にこのような組織に再編をするということについては申し上げておりますので、今簡単にということでございました、したがって、シンプルにし、スリム化をしながら、わかりやすいということを基本としながら、やはり総合力というものを示さなきゃならない。いくら小さな私どもの基礎自治体としての市役所にあっても、どうしても、いうところの組織の壁があり、また意識の壁もある。そしていろんな制度といったものの中で振り回されるという部分は現実にあるわけですから、いくらでもそれをハードルを低くしながらみんなで力を合わせようという部分に持っていかなきゃならないという部分を基本といたしまして、いうなれば、12部を8部に、そして54課室を42課室に再編をするという中で、この基本は、やはり先ほどもいろいろ出ておりましたけれども、例えばわさびのような取り組みになれば、やっぱり商品開発、六次産業化推進本部というのを立ち上げてきてやっているわけですから、今度これは産業部という中で商工もあれば、農業振興もあれば、畜産園芸もあるという中で、その中で一体となりながら、そこに観光も入ってくるということになるわけでご

ざいますから、組織的には一人の部長がそれを仕切ってきちんとマネジメントをするという方向に持っていけば、意思決定も、そしてまた、素早い動きといったようなものもそこにスピードというものが出てくるのではないかと思っておりますから、それを狙いとしての組織再編であるということをお理解いただけるというように思っております。

○議長（新田勝見君） 5番瀧本孝一君。

〔5番瀧本孝一君登壇〕

○5番（瀧本孝一君） 再編がうまく機能して、総合力が発揮される遠野市であってほしいと願います。

人口減少や社会情勢の変化などで、市役所も時代に呼応した組織づくりが求められていることは理解できます。

その上で、現在の12部54課室等を8部42課室等に再編・統合することによって、例えば、総務部にあった市民サービスコーナーの廃止や産業部に農林課として統括される農業振興課・林業振興課などをはじめとして、いわゆる現業といわれる農業・林業・畜産・建設・水道など、机以外に現場を持って出歩く部署は今でも十分とは言えない職員体制で、頑張っていると思っています。限られた人員の中で、現場と市民の直接的な対面交渉のサービス低下や課の弱体化、さらには、全協で示された、資料では見えない清養園クリーンセンターの所管が環境整備部からどこに移ったのかなど、懸念されるところも散見され、不安要素があるのも事実です。

まだまだ細かく見て行けば、さまざまな事案が予想されますが、市民サービスへの不都合な事案や影響など、どのように考えているのか、発生しないと断言できるものなのか、そのあたりの見解を伺います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 懸念される材料があると、これは全くそのとおりだと。パーフェクトな組織再編というか改正はないわけでありませ

いろいろな面でやってみて、もしもとなつた場合はまたやり直すというか、見直すという部分の繰り返しもある。これはまだスタートする前にそういう言い方をすれば言いわけになってしまうからあれですけども、やはり完璧なものではないという中で、やっぱりよりいい方向にという中で組織再編を進めた。したがって、現場、現業、この部分のほうと市民サービスの部分のバランスはどうなんだろうというような、そのようなことも懸念されるというようなお話もありました。

これは、やっぱり現場、これは基礎自治体という市町村はやっぱり現場であります。そして、また一方においては、市民課にしても税務課にしても、これはまた市民窓口という中で、福祉もそうでございますけども、現場の中における窓口サービスなわけでありませ

行政そのものは大きな意味ではサービス業だという捉え方もしていかなければ、これからの行政はやっていけません。いうところの、役所だという中で構えておつたのではない。どんどん市民の皆さんの現場に入っていかなきゃならない。となれば、やはりこれも何度も言っていることでありますけども、組織の壁を、そして、そこに制度の壁を立ちはだかつた場合は、それを越えるだけの意識を我々職員がしっかり持たなければならぬという部分で、それが総合力だということになってくるわけでありませから、そのことをしっかりと植えつくと申しますか、意識しながら、ただいまの懸念される問題等につきましては、しっかりと向き合いたいと考えているところでございますので、御了承いただけたらと思っております。

○議長（新田勝見君） 5番瀧本孝一君。

〔5番瀧本孝一君登壇〕

○5番（瀧本孝一君） ぜひとも懸念される部分を払拭できるように、市民と向き合っていたきたいと思います。私も、行政はサービス業ではないかというふうには従来から思っているところであります。

次に、庁舎が完成して整備されたばかりの各

部署のサイン表示は、全部ではないにしろ、あと4カ月弱で再び表示変更の可能性が高いと思われれます。

その場合、再編による部課名変更やサイン表示、細かいことを言えば、各種ゴム印等の製作などを含め、かかる費用の試算はしているものなのか。また、一般的に市民目線で考えれば、部や課が減るということは部課長が減るということにつながり、人件費の抑制、削減につながる効果もあるのではないかと受け取られると思われれますが、冷静に考えれば相対的な職員数はほとんど変わらないことから、短期的には期待は持てないと思われれますが、長期的に見た場合、そのあたりはどの程度の削減効果があるものなのか、もし数値的な試算などがあれば、お示し願います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） まさに、効果といったことを考えれば、この組織再編をこのような人件費なり経費等にどのように反映していくのかをきちんと試算しておらなければなりません。

ただただ組織を見直したというわけにはいかないという部分におきまして、総務部のほうでこの部分を試算したデータを持っておりまして、そのデータをもって答弁とさせていただきますので、総務部長のほうから答弁をいたしますので、御了承をいただきたいと思っております。

○議長（新田勝見君） 総務部長。

〔総務部長兼防災危機管理課長鈴木惣喜君登壇〕

○総務部長兼防災危機管理課長（鈴木惣喜君）

命によりまして答弁いたします。

再編による課名変更やサイン表示などにかかる費用、そして人件費等、コスト削減効果についての質問でございました。

今回の組織再編に伴い、主に本庁舎の総合案内板や窓口上部の表示の変更が必要となります。費用としては、概算で50万円ほどを見込んでおります。

次に、人件費についてであります。一般行政職を例に申し上げれば、職務は主事から部長級まであり、給料表では1級から7級まで分類され、職務や勤務年数等に応じた給料が適用されております。

職員数が変わらず、職務や勤務年数等に変動がなければ、組織を再編しても人件費の削減にはつながりません。それは議員御指摘のとおり、お見込みのとおりでございます。

また、組織再編により、部や課等の数は減りますが、現在の課長等を降格させるものでございませぬので、当面は担当課長あるいは主幹等ということで措置することになってございます。

したがって、組織再編による人件費削減効果は、即効性があるわけではなくて、徐々にあらわれてくるものというふうに捉えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（新田勝見君） 5番瀧本孝一君。

〔5番瀧本孝一君登壇〕

○5番（瀧本孝一君） かかる費用は50万円ほどということで意外に少ないと私は思いました。人件費は私の想像のとおりということで納得できました。

次に、現在の市の職員数は、消防本部を除き、292人と、合併時の406人から114人減っている状況にあります。この正規職員に加え、いわゆる、人件費の抑制に大きな効果があると言われる非正規職員である期限付職員、非常勤職員が事務補助など、行政の下支えの業務を担い、正規職員と似たような仕事をしながら、不安定な雇用身分で頑張っている現状もあると推察されますが、この方々の現在の任用状況と組織再編に伴う今後の任用の方向性や推移について見解をお尋ねいたします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

○市長（本田敏秋君） 組織再編により、人件費の、直ちに効果には表れてこないという分については、議員も御案内とおりにかというように思っております。これは、徐々に効果が表れてくるということになるかと思っておりますので、職員のモチベーションといったものをしっ

かりと保持しながら、やはり、一方においては、中長期的に見た人件費の抑制っていったものも、当然、図っていかなきゃならない。それは段階的にやっていかなきゃならないっていうことになるわけでございますから。

そういった中で、ただいまお話ありましたとおり、その部分できちんと非常勤職員なり、臨時職員の方々が、その部分も補完、補完という言葉はちょっとあれかもしれませんが、一緒になって仕事をしているっていう部分の実態なども、我々は忘れてはならないかというように思っているわけございますけども、ちなみに、この期限付臨時職員は31名、から、非常勤職員は79名を、これは12月1日現在で任用しております。

そして、期限付職員によりましては、書類整備にかかるさまざまな、いろんな事務処理、事務補佐等を担っていただいております。期限付臨時職員は、から、非常勤職員には、これは専門的な知識や経験に基づいた各種事務を担っていただいているという一つの役割を持ってもらっております。

特に、福祉の現場などは、非常勤職員の皆様の力が本当に大きなものがあるということも、私もいろんな形でそれを確認をしているところでございますので、限られた職員での行政効果とといったものをきちんとフォローするためには、期限付臨時職員、あるいは、非常勤職員の任用等といったものも、今後、必要ではないのかなというようにも考えているところでございまして、ただ、組織をあれした、人件をあれしたということだけじゃなくして、その部分で、やっぱり、効率的な、この方々の、こういった方々の一つの活用、あるいは、フォローといったものにつきましても意を用いながら、これからも対応してまいりたいというように考えているところであります。

○議長（新田勝見君） 5番瀧本孝一君。

〔5番瀧本孝一君登壇〕

○5番（瀧本孝一君） やはり、この方々の力沿いもなければ、行政の仕事は回っていかない

と思われまので、状況に応じて活用していくべきではないかというふうに思います。

次に、このような方々の雇用条件の改善や安定的な就労に向けての質疑は別の機会を捉えて、次の質問に移ります。

民間に任せられる部分は民間に任せる。続に言う業務のアウトソーシングについてお尋ねをいたします。

本市では、現在、市が所有する公共施設等の管理運営を指定管理者制度のもと、指定管理料を支払い、業務委託しているのがアウトソーシングの代表的な事例であると、私は捉えています。やはり、経費の一つの削減策であります。再編による外部への行政事務などのさらなるアウトソーシングの考え方、可能性や実施予定の有無などについてを伺います。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 先ほど、期限付臨時職員、非常勤職員の皆様もしっかりと市の仕事をフォローしてきていただいている。一つの我々の仲間だという認識の中で申し上げたわけでありまして、もう一方においては、やっぱり、効率的な部分においては、よく言う他の機関、他の団体との連携を図りながら、そういう役割を果たすという部分も、もう一方においては求めていかなきゃならないとなれば、言うところのアウトソーシング。今、お話になりましたとおりのアウトソーシングも、やはり、指定管理とといった一つの手法になるのか、あるいは、委託っていうことになるのか。いろんな手法あるかというように思っておりますけども、そのような中で、その団体、あるいは、各機関の果たす役割であれば、この部分はっていうような中で、やはり、アウトソーシングとといったようなものを、例えば、福祉の現場であれば、社協とどのように連携を図ってアウトソーシングしていったらいいだろうか。いろんな人づくりであれば、教育文化振興財団とどのような連携を図っていったらいいだろうか。じゃ、その部分の業務はそちらのほうでというようにものも合

わせ、きちんと検証しながら、やっぱり進めていかなければならない一つの課題であるというように承知いたしております。

○議長（新田勝見君） 5番瀧本孝一君。

〔5番瀧本孝一君登壇〕

○5番（瀧本孝一君） アウトソーシング、外部委託できるところはその方向でやっていくべきではないかなというふうに、私も思います。最後に、宮守総合支所の位置づけと今後についてお伺いします。

議会機能も9月から本庁舎に移転し、広い建物がますます寂しくなっていく感のある宮守総合支所ですが、総合支所としての位置づけはどのようなのか。一時は、総務企画部のもとに位置づけられるという情報もありましたが、宮守町民の納税、各種書類の申請、福祉、健康、建設、農政、地域要望対応など、あらゆる生活パターンのサービスが窓口で寄せられている現状があります。少ない職員体制のもとで、多岐にわたる業務をこなして頑張っていただいておりますが、宮守町民が安心して支所の窓口に行き、目的が果たせる人員体制が期待できるものなのかどうかを含め、再編後の位置づけや在り方についてお尋ねいたします。

○議長（新田勝見君） 本田市長。

〔市長本田敏秋君登壇〕

○市長（本田敏秋君） 宮守総合支所、合併から10年という中に置きまして、やっぱり、一つの大きな役割を果たしてまいりました。また、この本庁舎ができるまでは、遠野市議会も宮守総合支所の中に置かれておいて6年半。その中で、しっかりとした活動をしてきたというような、そのような宮守総合支所なわけでありました。が、いまして、総合支所としての窓口業務、これ、今、御質問にありましたとおり、いろんな窓口業務のほかに、安全安心に関する一つの業務、あるいは、地域コミュニティーのいろんな地域振興策にかかるさまざまな拠点といったようなものをしっかりと、やっぱり、位置づけていかならないかというように思っております。実は、ことしの9月に、本庁舎がこちらの

ほうに移り、議会もこちらのほうに移ったというに合わせるように、こういうプロジェクトが宮守に立ち上がりました。

遠野・西の玄関口みやもり検討会といったようなものが、地元のいろんな関係者が集まりまして、元気にしよう。総合支所を確認しながら、これを利活用しながら、どうすれば、まさに西の玄関口としての宮守がという部分の中で、宮守駅、桐町、さらには眼鏡橋。そして、このmm1、そしてJA花巻の宮守支所も含め、宮守ホールもある。今、宮守総合体育館も全面改築、リニューアルしております。そちらの体育館を利用しながらという一つの動線の中で、まちなか再生という一つの切り口の中から、宮守を元気にしようという、そのような動きが、地域住民の皆様によって、このような組織が立ち上がって活発な活動をしておりますから、これを全面的にフォローしながら、そして、宮守総合支所の位置づけをそういうように改めて、位置づけるという部分の中で、安心安全な拠り所としての宮守総合支所を見い出してまいりたいというように思っておりますので、地域住民の皆様のさらなる活発な活動を、期待を申し上げ、また、それを全面的に支援をしてまいりたいというふうに考えているところでございますのでよろしく願いいたします。

○議長（新田勝見君） 5番瀧本孝一君。

〔5番瀧本孝一君登壇〕

○5番（瀧本孝一君） 地域住民、宮守町民が安心できる支所であるように、再編を、そのような支所であるようなことを願い、ちょうどお昼となりましたので、私の一般質問を終わります。

○議長（新田勝見君） これにて一般質問を終了いたします。

休会の議決

○議長（新田勝見君） お諮りします。12月6日から7日までの2日間は、委員会審査のため休会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（新田勝見君） 御異議なしと認めます。
よって、12月6日から7日までの2日間は休会
することに決しました。

散 会

○議長（新田勝見君） 以上で、本日の日程は
全部終了いたしました。
本日はこれにて散会いたします。御苦労さまで
した。

午後0時05分 散会